

旧五街道と本州・九州・北海道・沖縄縦断の次は、まだ行っていない四国を旅することにした。四国といえば「四国八十八ヶ所札所めぐり」ということになる。今回は四国を横断するのではなく、ぐるっと一周する歩き遍路の旅だ。1番札所から始めて高知市の30番台の札所を目指し、20日間の予定で出発した。

### ■淡路島を通過して第1番札所へ

《10月29日～31日》遍路の出発地となる鳴門市の第1番札所霊山寺(りょうぜんじ)へは、淡路島南北60kmを2日間で縦断して向かうことにした。明石から高速艇で淡路島北端の岩屋に渡り、大阪湾沿いのR28を下って途中の洲本でビジネスホテルに泊る。2日目、淡路島南端の淡路島南インターチェンジ側の伊弉港に到着。宿は「民宿大潮荘」。



40年程前に仕事でよく淡路島を訪れたが、当時と比べて北淡の夢舞台周辺や洲本港周辺は大きく変貌していた。あの頃、明石海峡を船で渡っていると橋脚造りの準備なのだろう、小さな船が大きな岩をドボンと1個ずつ海に落としていた。その後、明石・鳴門の橋と高速道路が島の風景を変え、暮らしも随分と変わったよう見える。

翌日3日目。四国に渡る。淡路島から四国に渡る船は今ないので、淡路島南インターチェンジから淡路交通のバスに乗ってJR鳴門駅まで行き、そこから4時間余り歩いて霊山寺に向かう。

### ■歩き遍路の旅

#### \*遍路の衣装と用具

第1番札所霊山寺で遍路に必要な物を買って揃える。揃えるものは多種あるが、真言宗信徒でもなく信仰心も薄いので自分なりに取捨選択した。

①納経帳(各札所で本尊名と寺名を書いてもらい、朱印を押してもらうための綴り本)。  
②納め札(参拝したお堂に渡す名刺のようなもの)。  
③<sup>おいする</sup>笈摺(半袖の白い上着)。  
④経(般若心経などが載っている)。  
⑤菅笠(日除にも雨にも便利でこれは必ず欲しかった)。  
⑥へんろみち保存協力会年編の地図(歩き遍路の必需品)。  
⑦数珠(持って行くのを忘れた)。  
⑧金剛杖(この時は邪魔になると思って買わなかったが、持っていないと弘法大師空海さんと「同行二人(どうぎょうににん)」とはならず、また遍路の格好がつかないの次のお寺で購入)。計8点、約12,000円也。杖は買ってよかった。特に足元の悪い急な下り坂では必需品だった。他にも袈裟や山谷袋などの準備品が幾つかあったが省略。

#### \*参拝方法

参拝の方法にはしきたりがあって、本に詳しく書いてある。ただその通り行くと時間がかかるので、自分なりの参拝方法を決めた。



<4番札所門前にて>

1. 門前で一礼 2. 手水場へ 3. 本堂へ参拝。納め札を納札箱に納め、賽銭をあげ、合掌、般若心経を詠む 4. 大師堂へ参拝。本堂での手順を繰り返す 5. 納経所で納経帳に記帳してもらう。という流れだ。

線香やローソクは重いので省略し、読経はよく解らないので般若心経だけにし、他にも色々あるようだが、ここら辺が身の丈だろう。

**\*道みちのこと**

**【遍路1日目】 10月31日 晴**

「1番さん」の愛称で親しまれている第1番札所靈仙寺で必要な品を揃えてから、この日は30分ほど先にある第2番札所極楽寺まで行って宿坊に泊る。初めて泊まった宿坊は部屋や食事もよく宿泊料も手ごろ。折角の機会なので、翌朝6時からの勤行に参加して読経や空海にまつわる法話も聞き、厳粛で清々しい時を過ごさせてもらった。宿「極楽寺宿坊」2食付6,480円。おすすめ。



<2番極楽寺夕食>

**【遍路2日目】 11月1日 晴**

1番札所から10番までは比較的近い場所に在るので、この日は第3番札所金泉寺(こんせんじ)、4番大日寺、5番地藏寺、6番安楽寺、7番十楽寺(じゅうらくじ)、の5つの札所を巡った。「般若心経」はお堂の隅っこで声を潜めてタドタドシク読んでいます。

宿は7番十楽寺宿坊。ここの宿坊はホテル部屋でツインの1人使用。昨日今日と宿坊の客は、関東から来たという60歳代の真面目な男性二人連れと私を含めて3人だけ。勤行は昨日の極楽寺に比べると法話もなく、アッサリ終わって3人共ガッカリ。

宿「十楽寺宿坊」2食付7,900円。宿坊は畳の方が相応しい。

**【遍路3日目】 11月2日 雨のち曇**

8番熊谷寺(くまだにじ)、9番法輪寺、10番切幡寺(きりはたじ)を巡る。次の12番焼山寺(しょうさんじ)は峻険な山の上であり時間がかかるので、その麓の11番藤井寺(ふじいてら)辺りの宿に泊まって翌朝焼山寺を目指す遍路が多い。

明日は険しい山道というのに両足の豆が酷くなり、おまけに指まで腫れてジンジンと痛い。古くなった靴の不具合が原因だ。しかし運良く旅館近くに靴屋があったので新しく買い替える。助かった。

その町で歩いていると、ちょうど車から降りてきた娘さんがこちらを向いて合掌した。遍路の姿で妙な真似はできない、と思った。

宿「三笠屋旅館」2食付6,800円。宿の主人も奥さんも世話好きで、いただいた焼山寺の地図が随分役に立った。

**【遍路4日目】 11月3日 晴**

真新しい靴で出発。始めに11番藤井寺に参ってから、標高938m焼山の8合目付近にある12番焼山寺を目指す。ここは1番札所から歩き始めて最初に出遭う「遍路ころがし(難所)」のある寺だ。リュックサックの重さは納経帳や遍路地図帳などが加わって5kg程になったことも



<12番焼山寺>

あり、噂に違わずキツかった。道はアップダウンを繰り返すので、下りの時に「もったいない、もったいない」と、西脇市から来た愉快なおじさん二人連れが言っていた。

宿「焼山寺宿坊」2食付 6,000 円。広い板張り廊下を挟んで両側に襖で仕切られた大部屋があり、160人は泊まれるという。因みにこの日の宿泊客は4人。是非おすすめ。

宿で寛いでいるところに突然、勤めていた会社の友人から電話があった。彼はいつもの軽く明るい声で「2ヶ月前に癌が見つかったが、既に全身に回っていて手の施しようがない。あと数週間の命と宣告され、入院できるホスピスを探している」と言う。以後は、各寺のご本尊と弘法大師に彼の平安を祈願する。

【遍路5日目】 11月4日 晴

急な下り坂や上りを経て、鮎喰川（あくいがわ）の谷を見下ろす風光明媚な天空の遍路道を進み、5時ぎりぎり13番大日寺に着いて記帳に間に合った。記帳受付は午前7時から午後5時までと決まっている。

宿は大日寺の宿坊に予約電話をしたところ、客が5人以上にならないと開けないらしく、隣にある旅館に頼んでくれた。



<鮎喰川を見下ろしながら行く>

宿「かどや旅館」2食付 7,000 円。元気のよいおかみさん。

【遍路6日目】 11月5日 晴

山から徳島市の街中に戻ってきて14番常楽寺、15番国分寺、16番観音寺（かんおんじ）、17番井戸寺（いどじ）、を巡り18番恩山寺（おんざんじ）の近くの宿まで。

途中で大きなリュックを背負った30歳の青年と出会った。遍路小屋やお堂や休憩所などで寝泊りしながら歩き遍路をしているという。石垣島のサトウキビ畑でバイトなどをしてお金を貯め、全国を自転車や歩きで放浪しているらしい。恩山寺近くのバス停に泊まろうとしていたので、これも何かの縁だと思って私が泊まる宿に一晩泊まってもらった。

宿「民宿ちば」2食付 7,020 円。明るい雰囲気 of 遍路宿。

【遍路7日目】 11月6日 晴

宿を出て直ぐの18番恩山寺、200名収容の宿坊を持つ19番立江寺（たつえじ）、を巡り、20番鶴林寺がある山の麓の宿に向けて進む。途中お接待のおばあさんに布製ティッシュケースをいただいた。これまでに2万1千個作ったという。神戸淡路大震災の際には地元選出の国会議員や県会議員から震災見舞に欲しいと請われ、たくさん渡したという。神戸市民としてお礼を言った。



<下に見える橋を渡って21番太龍寺に登る>

後の行程を考えて、少し早いのが15時に宿入りする。

宿「金子や」2食付 6,480 円。鶴林寺、太龍寺に向かう基地になっている。

【遍路8日目】 11月7日 霧雨のち曇

20番鶴林寺、21番太龍寺、22番平等寺を巡る。行程は先ず鶴林寺がある山に登り、一度平地まで下ってからまたケーブルカーもあるような太龍寺に登り、下って平等寺、という 2

度山に登るハードなコース。12番焼山寺よりしんどかった。

宿に着くと11月3日に電話をくれた友人からまた連絡があり、緩和ケア科のある病院に9日入院すると伝えてきた。入院できたら直ぐ見舞いに行こうと思っていたので、今回の遍路は23薬王寺で中止することにした。

宿は平等寺横の「山茶花」2食付6,300円。遍路宿としての気配りと過不足ない対応がよい。

【遍路9日目】 11月8日 雨

この日お寺の参拝はなくて移動のみ。

途中、土砂降りの雨に遭ったり、カッパを着たり脱いだり、毎週日曜日にお接待をしているというおじさんに缶コーヒーをいただいたり、遍路休憩所で近所のおじさんに「よってけ、よってけ」と何度も呼び止められて長話を聞いたりした。おかげで距離は22kmと短いのに宿に到着したのは17時。9時間以上かかったけれど楽しかった。



<山座峠遍路休憩所>

宿「国民宿舎うみがめ荘」6,800円。景色の良い海岸の直ぐ側にあり、ウミガメがいる。

【遍路10日目】 11月9日 曇

出発から数えると12日目の最終日。朝、徳島県内最後の札所となる23番薬王寺に参る。お城のような石垣の構えを持ち、正月には20万人の参拝客があるという大きな寺だ。

薬王寺参拝の後、近くのJR日和佐駅から徳島駅へ。徳島駅前から高速バスに乗って1時間20分で舞子へ。舞子からJRで帰ってきた。

#### ■お寺や遍路のことなど

##### \*ルート

へんろみち保存協力会編「四国遍路ひとり歩き同行二人（地図編）」2,500円、という歩き遍路のバイブルがあり、また、いたる所に道しるべがあるので迷わずに歩ける。間違っただとしても地元の人がそのことを教えてくれたり、聞けば誰でも親切に教えてくれるので安心だ。

##### \*札所の寺

近年、過疎のために廃寺や廃社が増え、それだけでなく檀家が減って経営が苦しいお寺が増えていると聞くが、徳島県内23札所の各寺は広大で建物も大きくて多く、参拝者が多いのでどの寺もトイレが整備されてる。弘法大師さんのご利益を授かっているのは、先ず札所の寺のようだ。

印象に残った寺は、宿坊も勤行も良かった2番極楽寺。険しい山にあって大木に囲まれた12番焼山寺、20番鶴林寺、21番太龍寺。鄙びた雰<sup>そび</sup>囲気の港町に聳える23番薬王寺、などだ。

##### \*宿

宿坊や遍路相手の民宿や旅館、いわゆる遍路宿が各寺の周囲にあるので宿の心配はない。そこでは、おばちゃんとの話や客同士の情報交換もできるので便利で有益だ。どの宿も値段はあまり変わらず食事の実質的だし、朝食時間が6時半、と一般の宿より30分早いのも助かる。

##### \*お遍路さん

今年は高野山開創1200年記念の年なので、弘法大師ゆかりの四国八十八ヶ所札所も大勢の参拝客が訪れたという。遍路の方法はバスツアーや車が多いが、その中で歩き遍路は年間3千人くらいと聞いた。

途中出会った女性3人組は大阪の四国巡礼の講から来たと言い、先輩格のリーダーが作法や歩

き方やリュックの詰め方などを細々と指導していた。こんな講は全国に有るようだ。

意外だったのは外国人の多さで、特に西洋人の遍路が多く目につく。2番極楽寺住職の話では、スペイン人の若い女性が一人で八十八ヶ所を50日ほどで巡り、最後は高野山に納経に行ったそうだ。

二日間宿で一緒になった歩き遍路の外国人5人グループ（オーストリア人男3人・ドイツ人夫婦）は、オーストリア人の1人がグループのツアーガイドとして引率していた。この人は既に4回八十八ヶ所を回ったらしい。国ではスポーツ・ツーリズムの仕事をしており、ドイツ語で四国遍路の分厚いガイドブックも出版していた。

自転車ですべての外国人のグループも見たが、遠く日本まで来て四国遍路をする人達だ。皆さんバイタリティーがある。

四国遍路は八十八ヶ所を何度も巡っているリピーターが多い。それだけ、ここには魅力があるのだろう。まだ4分の1の札所しか巡っていないが、分かる気がする。

#### \*歩き遍路の魅力

遍路の魅力は、街道歩きと登山とを併せ持った変化に富むルートであること。宿坊や遍路宿では皆と一緒に食事をする事が多く、どこから来たのか、遍路に来た理由は何か、これまでに経験したこと見たこと聞いたこと、今後のスケジュールや宿の情報交換、など共通の話題に話が弾み、様々な人に会えること。お接待の皆さんとのふれあい、などだろう。



<23 番薬王寺>

そしてお接待を受けたり合掌をされたりなどすると、遍路が単なる歩き旅ではなく信仰の旅である、と改めて感じさせられる。切実な願いや思いを持って巡っている人も多いことだろう。

#### ■旅を終えて

11月11日、横浜の緩和ケア病棟に居る友人を見舞う。何か気がかりは、と聞くと、「シニア・アンサンブルの指導を4回キャンセルしてしまって皆に申し訳ない」と、この期に及んで人を思いやる言葉に、こちらが勇気もらった。17日永眠。享年68歳。

この友人をネットで見ると、銜いのない人柄と、ライフワークのシニア・アンサンブル（中高年の市民オーケストラ）普及に情熱を注ぐ姿が映像や記事にある。

今回の歩き遍路の旅は楽しかった。この続きは、来年の春、徳島県日和佐から高知県の室戸岬にある第24番札所最御崎寺（ほつみさきじ）を目指して出発する予定。